

完全拘束マユ子



DOJIN
R18
成人向け

亮金拘束子



館が焼けてから数日が経つ。
わたしは館の人間に拘束されている。
カンチャナたちの身の安全を条件に。

一応客人扱いだし、それなりに扱われると
たかを括っていたけど、この有様だ。



ラバースーツに押し込まれ、アソコとお尻、オシッコの穴まで妙なモノを
突っ込まれて、どこかの地下室で放置されている。
トイレに行くこともできずに、排水溝にホースで垂れ流しだ。

特に襲われるでもなく、ただただひたすらここに立たされ

時折振動するアソコの棒に強制的にイカされ続けている、

荒めのジッパ―が降ろされ、わたしのオッパイがラバースーツの外に飛び出した。
ラバーの締め付けから解放されたオッパイは搾り出されたように露出している。

まるですごい力でオッパイを締め上げられてるみたいで
乳首がパンパンに突起している。

話によると、今から【別の拘束】の準備をするらしい。
もう十分にギチギチに縛られていると思うけど……

わたしは立場上、普通にお客さんの相手をするわけには
いかないらしく、ちよつと特殊な方法で相手をさせるみたいだ。



口の中にオチンチンの形をしたモノを
挿入された。

目一杯口を開けないとダメなくらい太く
長さもある。先端にはホースが二本。

一本は胃の中まで通され、膨らまされてしまう。
もう一本は気管支の中に器用に通され、同じように固定された。
常に感じる嘔吐感、異物が常に喉に詰まっている感覚。

鼻からも呼吸ができない。口のホースでやっとの思いで呼吸できている。

く、苦しい。
想像以上の苦痛。不快感。

何より今まで当たり前に
できてたことが制限された
喪失感がわたしを襲う。



口がベルトで固定されて完全に塞がれた。頭の上にある機械から酸素が供給されわたしの声が機械的な呼吸音だけになってしまった。

普通に息してるより抵抗があって少し苦しい。

喉には常に何かが詰まってるような感覚があって吐きたいのに吐けない
すごく気持ちが悪く感覚のままだ。

一体何のためにこんな仕打ちをわたしにするんだろう？



おもむろにおっぱいを掴まれ、乳首に
太い串を通された。

シクッ!

シクッ!

ピアスで変なカップを乳首に固定され
すごい勢いで吸引が始まった!

ピアスが乳首ごと引っ張られる!
ちぎれる! 千切れちゃう!

クッ
クッ
クッ

麻酔もなしにいきなり。
痛い! 乳首が焼けるように痛い!

妊娠もしてないのに白い液体が
おっぱいから吸い出された!

じゅー



手足を折りたたまれて、変な土台の上に固定された。
透明の柱のようなものでお尻を支えられ、膝立ちの状態に固定される。

おマンコにはさつきよりずっと大きい
棒が深々と差し込まれ

ドン
ドン
ドン!!

みちゅ

みちゅ

ドン
ドン
ドン

ドン

ドン

オシッコの穴とうんちの穴もホースで
土台に繋がれてしまった。どちらも体の奥で膨らんで
抜けないようにされてしまった。



透明の筒がセツトされ、わたしの体が収まる。その中にドロドロと透明の液体が流し込まれた。その液体がアクリル樹脂だと聞かされた時は心臓が止まるかと思った。

首から下までわたしをアクリルで固めてしまおうというんだ！琥珀の中の虫のようにわたしをアクリルで生きたまま固めて、一生ここで飼われると聞かされ、頭の中が真っ白になった。

いやだ！出して！他のことなら何でもしますから！

ハッ
ン

薬で眠らされているうちに、アクリルは完全に硬化していた。メンテナンスのために体とアクリルの隙間に数ミリあるものの、全く身動きがとれない！

ひどい……ひどすぎる。まだ館で男の人の相手をさせられる方がマシだ！

こんな姿で一生をここで過ごすなんて……！
想像いだけで気が狂いそうになる！
やっと来ることできた地球でこんなことになるなんて。後悔の波が押し寄せて感情がぐちゃぐちゃになる。



おマンコのパイプやローターで
常に性快楽を強制的に
与えられる。

シューッ

ビィィィッ

シューッ

ビィィィッ

呼吸が制限されているので
酸素不足で苦しいけど
快楽は止まらない！

もう何回イッたかわからない。
つくづく自分がイクだけの
存在に変えられたんだと
実感する……怖い

シューー

シューー

後悔なんてしない
そう思ってきたけど……

いやだ。帰して……
戻りたい、一生このままなんて
いやだよ。

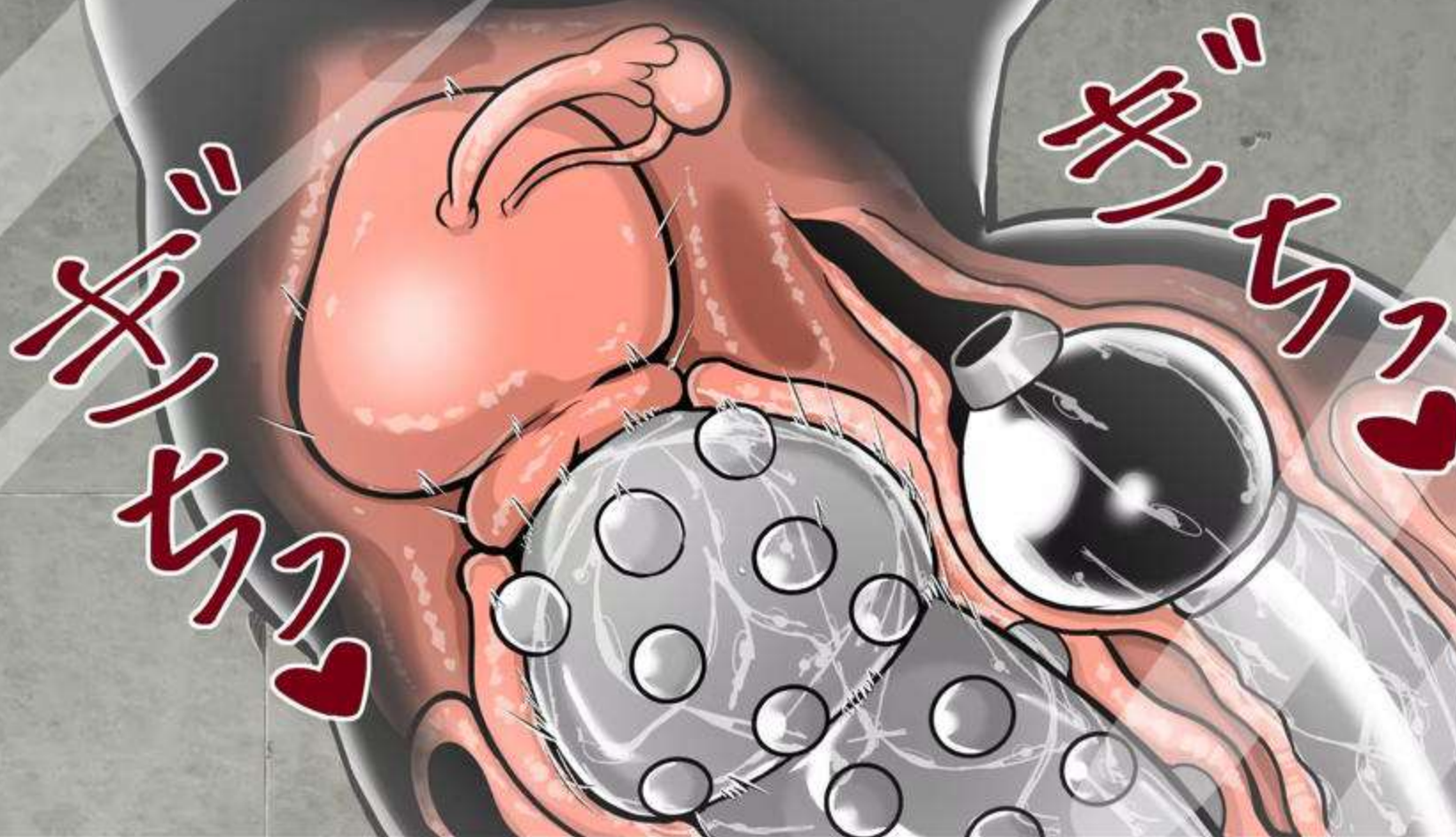
シュウジ……ニヤアン……

シューッ

シューッ

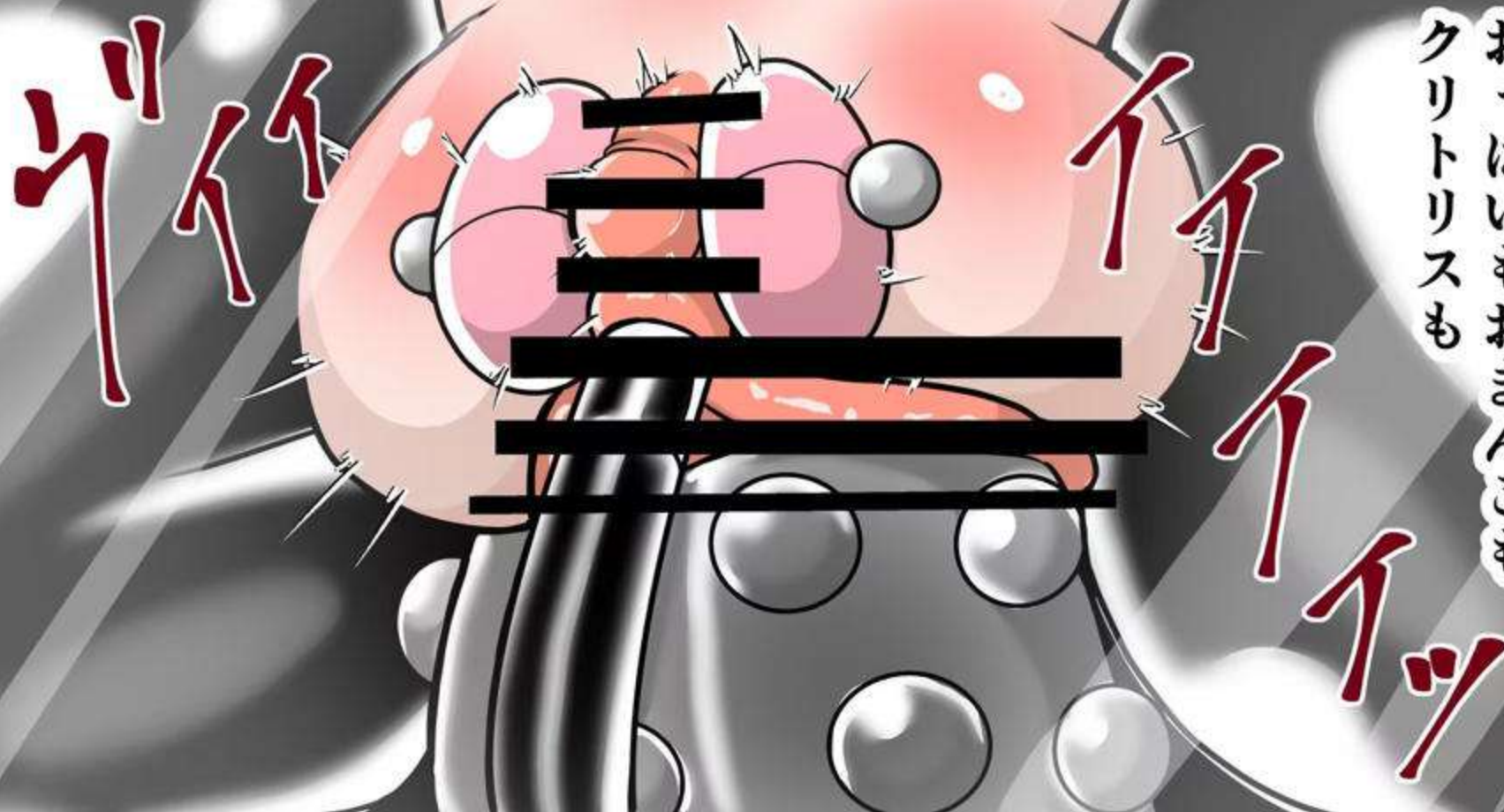
お父さん、お母さん……
誰か助けてよ！

透明の水底で常にわたしは
性刺激を与えられた



それこそ休む間もなく
徹底的に……

おっぱいもおまんこも
クリトリスも



お尻の穴もオシッコの穴も
全部に刺激がくる！

休む時は呼吸用のホースを
塞がれ、気絶させられる

バツ

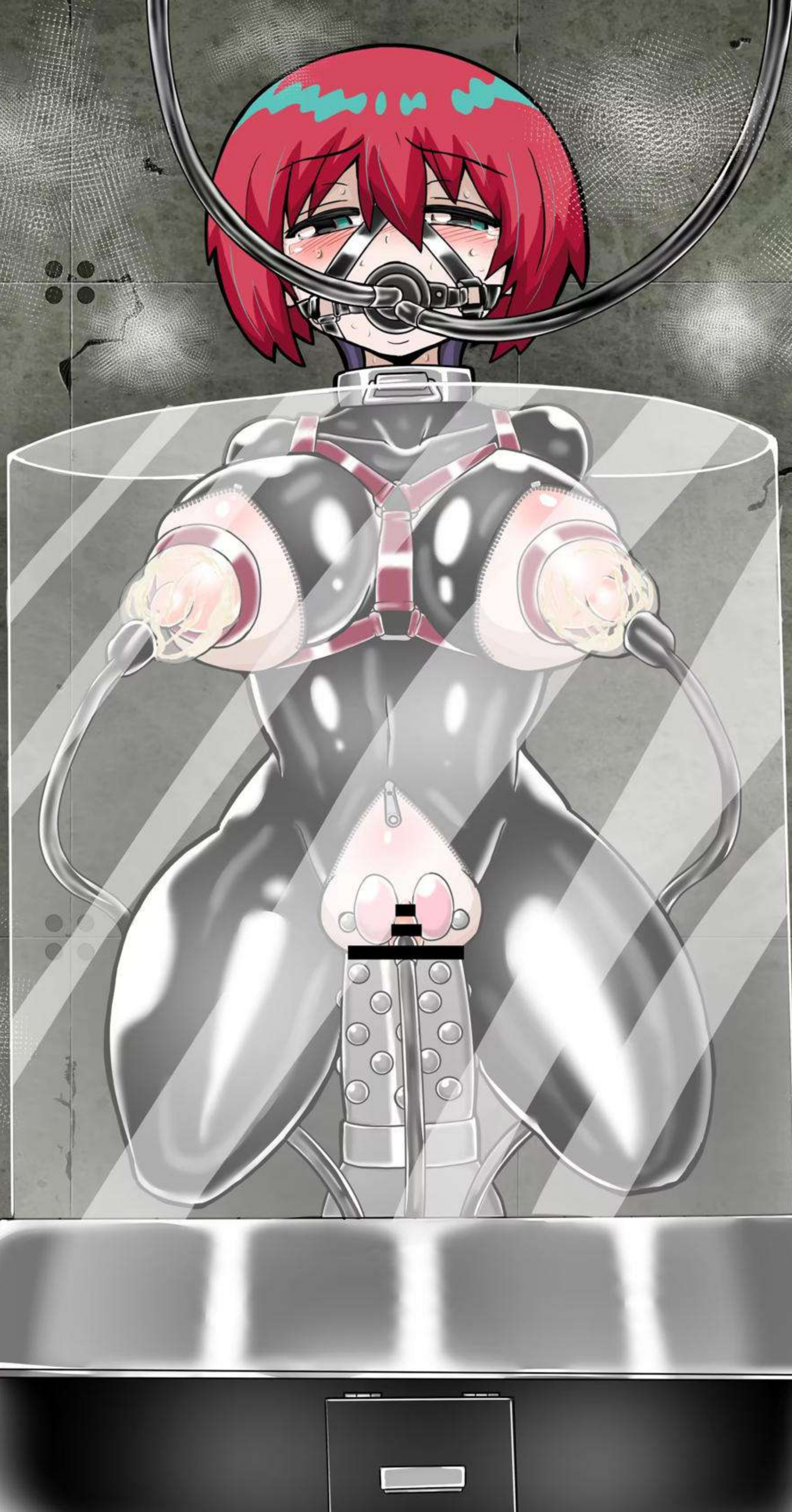
気絶してる間も器具はずっと
動きっぱなしだ……

ズン



全身を完全密閉された状態で刺激され続け、疲労や睡眠不足で意識が朦朧としている。

そろそろごはんの時間だ。わたしに許された唯一の楽しみ。
ごはんと言っても、胃に繋がっているチューブで直接流し込まれるだけの作業的なものだけ。



わたしのたくさんさんの恋人さんたちの精液：それがわたしの唯一許されたごはん。
もちろん栄養的なものも混ぜ込まれてるんだらうけど。

巨大な注射器にたっぷり注がれた精液を

シュー♡

ドロォ♡

シュー♡

ゆっくりじっくり胃に流し込まれていく。
苦しいけど、丁度いいエッチな気持ちになれるのでうれしい。

特殊な性癖：…わたしみたいな女の子にしか興奮できない恋人さんたちが
飽きもせずわたしを観察しにくる。

ロオツ♡

別にわたしに何をするわけでもなく
自分のおちんちんをしごいて

トラ

唯一露出しているわたしの顔に射精して
満足げに帰っていく。

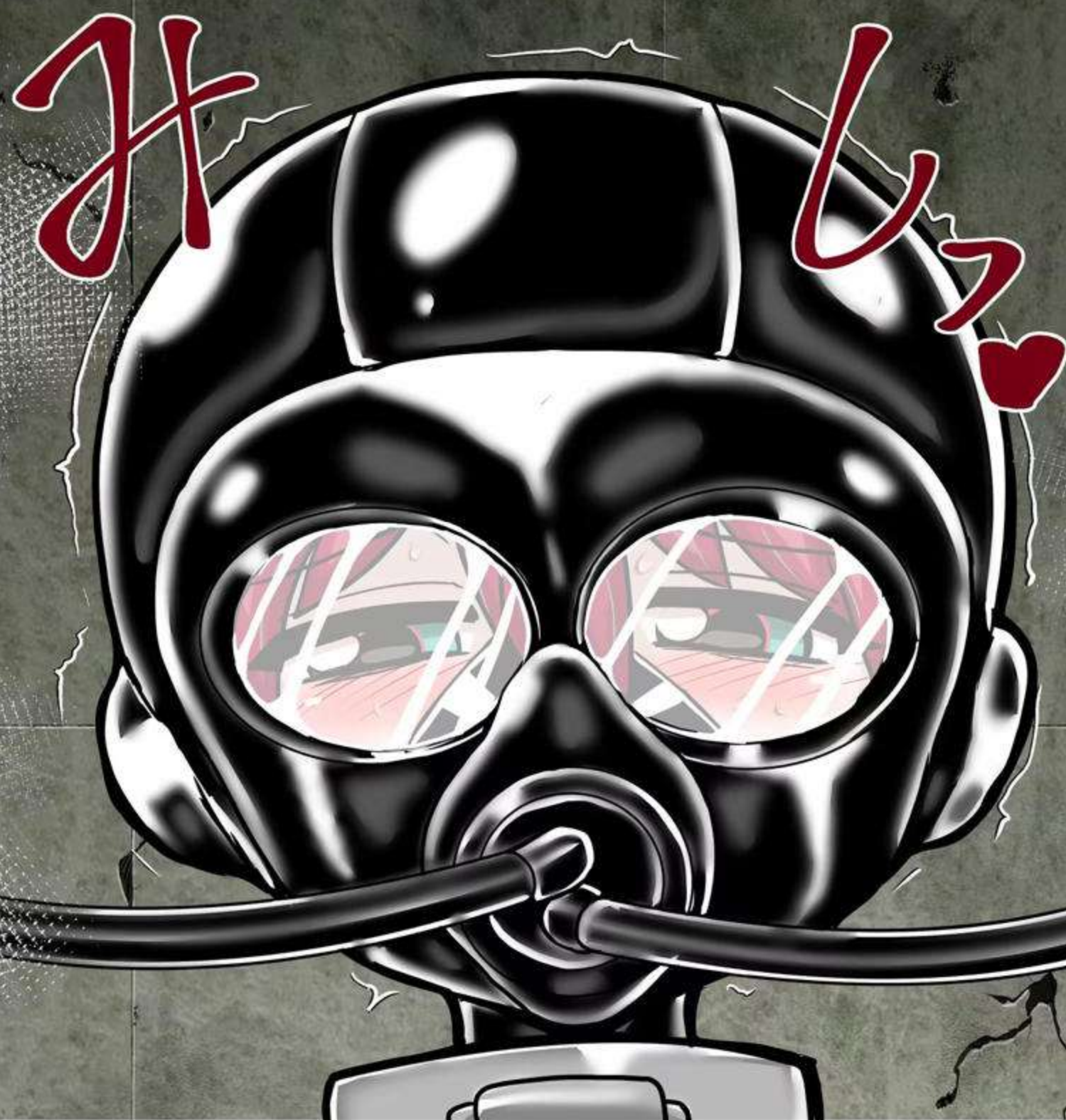
毎日、何人も何人も来て、それを繰り返す。
みんなアクリルの中でイってるだけの
わたしを見て何が楽しいんだろう？

「わたしの自由をもっと奪ってほしい。」
恋人さんたちの要望で



遂に顔の自由も奪われることになった。

マスクを被せられ、内部が膨らみ
顔が圧迫される。耳はもう聞こえない。
わたしを構成する要素が消えてく……



嗅覚もマスクで塞がれ、唯一許されたのは
視覚だけだった。分厚いガラスでよくは
見えないけど、無いよりマシだった。

さらに大きな鉄枠のアクリルケースに閉じ込められて、追加のアクリルが流し込まれた。
液体はわたしの閉じこめられてる空間にドロドロと溜まり、とうとう空間全部に満たされた。

プシュッ

プシュッ

ゴトゴト

もうこれで顔すら動かすことができなくなる。
できるだけ辛くない位置で頭を固定したいので、どんどん固まるアクリルの中で
必死に顎を上げて姿勢の確保をする。

完全に頭からつま先までアクリルの中に収まってしまったわたし。
恋人さんたちはそんなわたしの姿を芸術的な彫像を見るような目つきで眺めている。



口で啜えることも、セックスもできない、ただここでイキ続けるだけの存在のわたしを
みんな愛して可愛がってくれる。

もうどうなってもいいや！



ミエツ♡

ミエ♡♡

ミエ♡♡♡

気持ちいい！
気持ちいいヨオおおお！





この世の誰よりも、気持ちよく。

オムチ

ごめんね
がんばって

个

ギョーモちゃん

44

もっず

◆あとかき

お手に取っていただきありがとうございます。
今回は久々に二次創作でした。マチュ好きすぎて描いちゃった。

Pixivでのリクエストをきっかけに作成しました。
プレイの元ネタはとある名作ネット小説です。

(わかる人にはわかるはず！)

元ネタ小説もコミカライズ予定なので(今年中に出したい)
そちらもよろしくお願いします！

◆奥付

タイトル	完全拘束マチュ
発行日	2026/02/18
発行者サークル	もっちゃらホゲホゲ会
発行者	ズラー大統領

※本作品の内容は全てフィクションであり
実在の人物、事件、団体には一切関係ありません。
※本作品は18歳未満の方の閲覧、購入を禁止いたします。









DOJIN
R18
成人向け











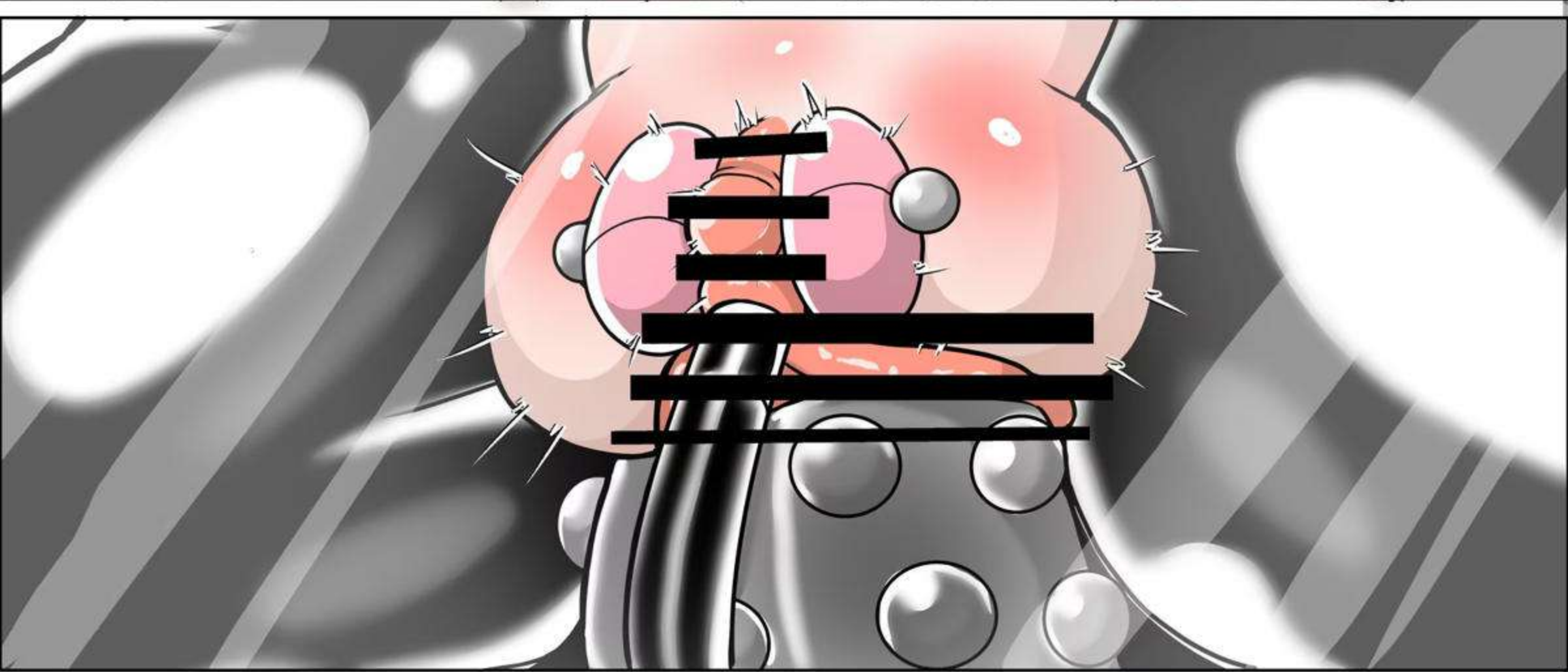
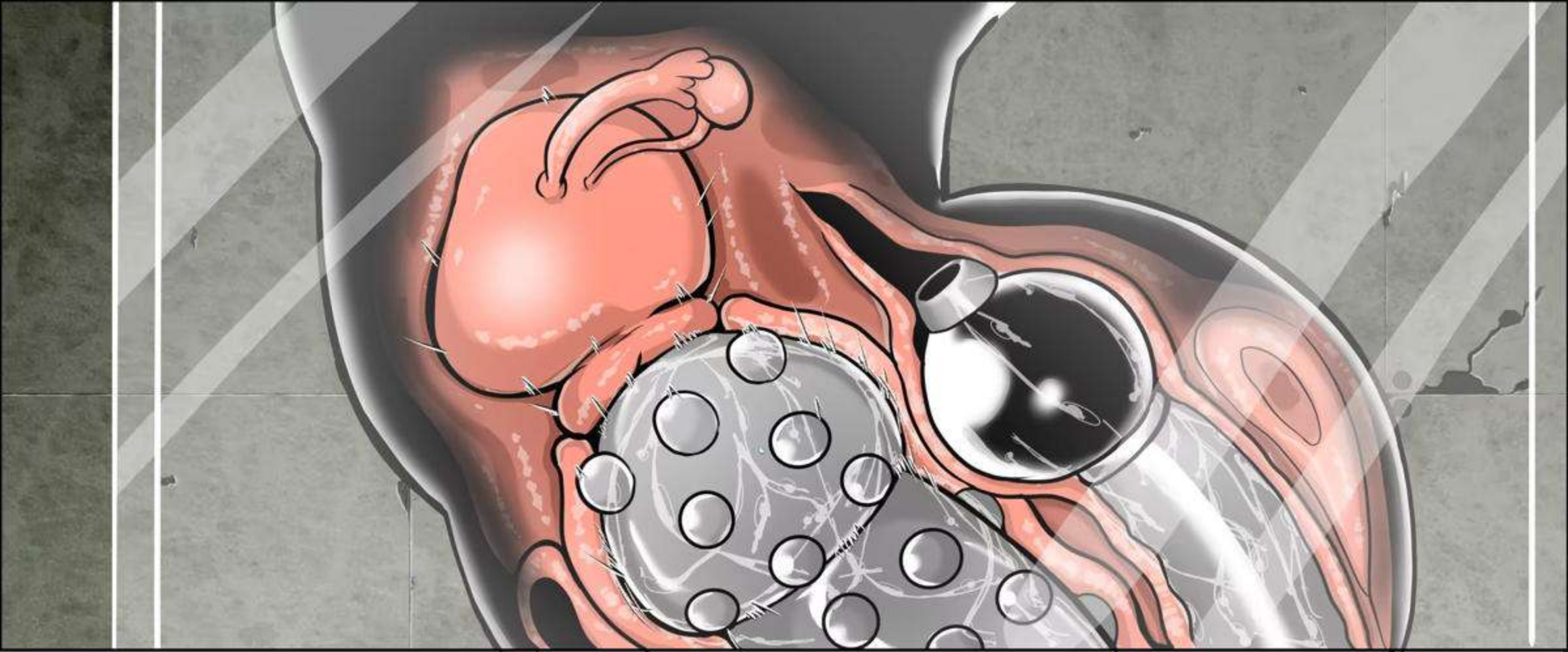


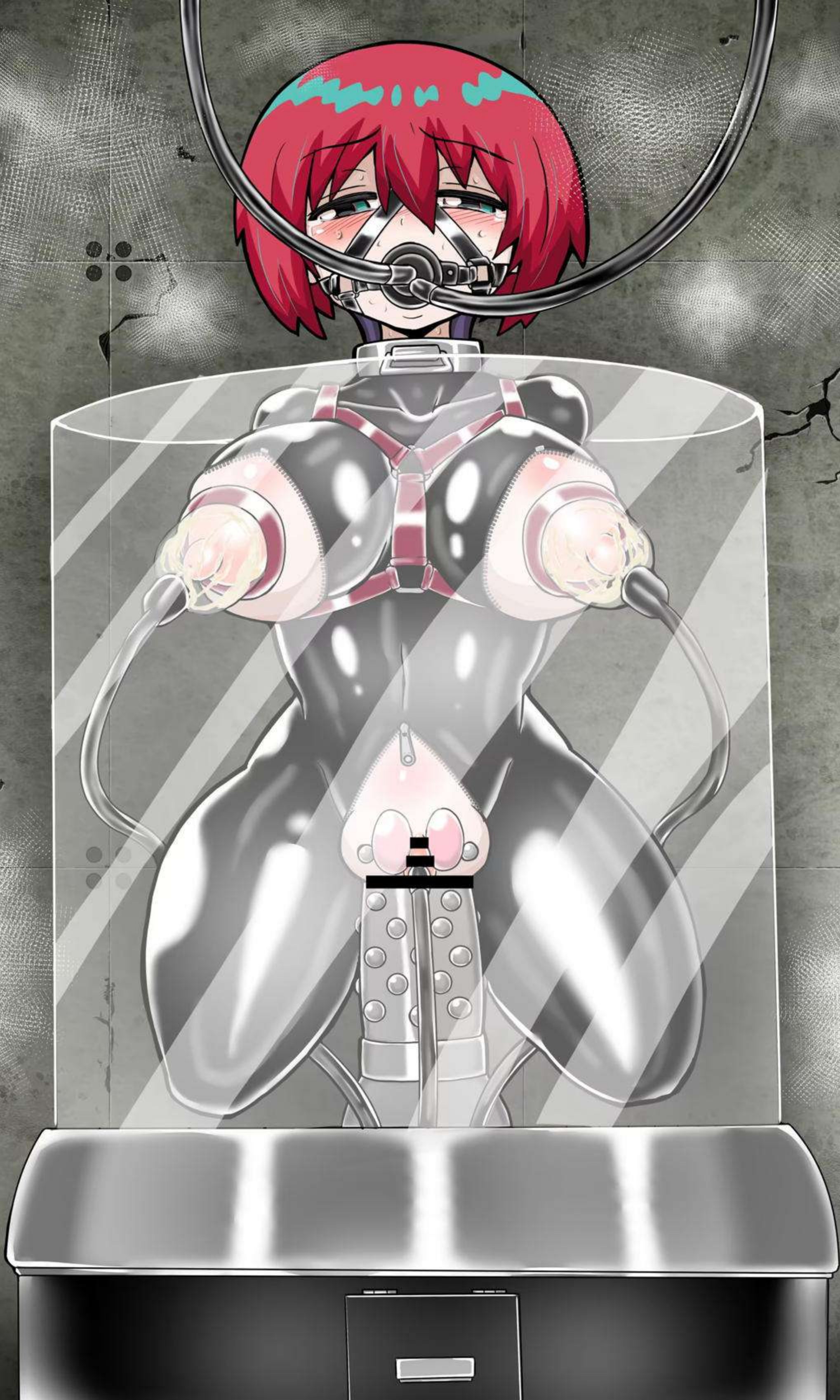








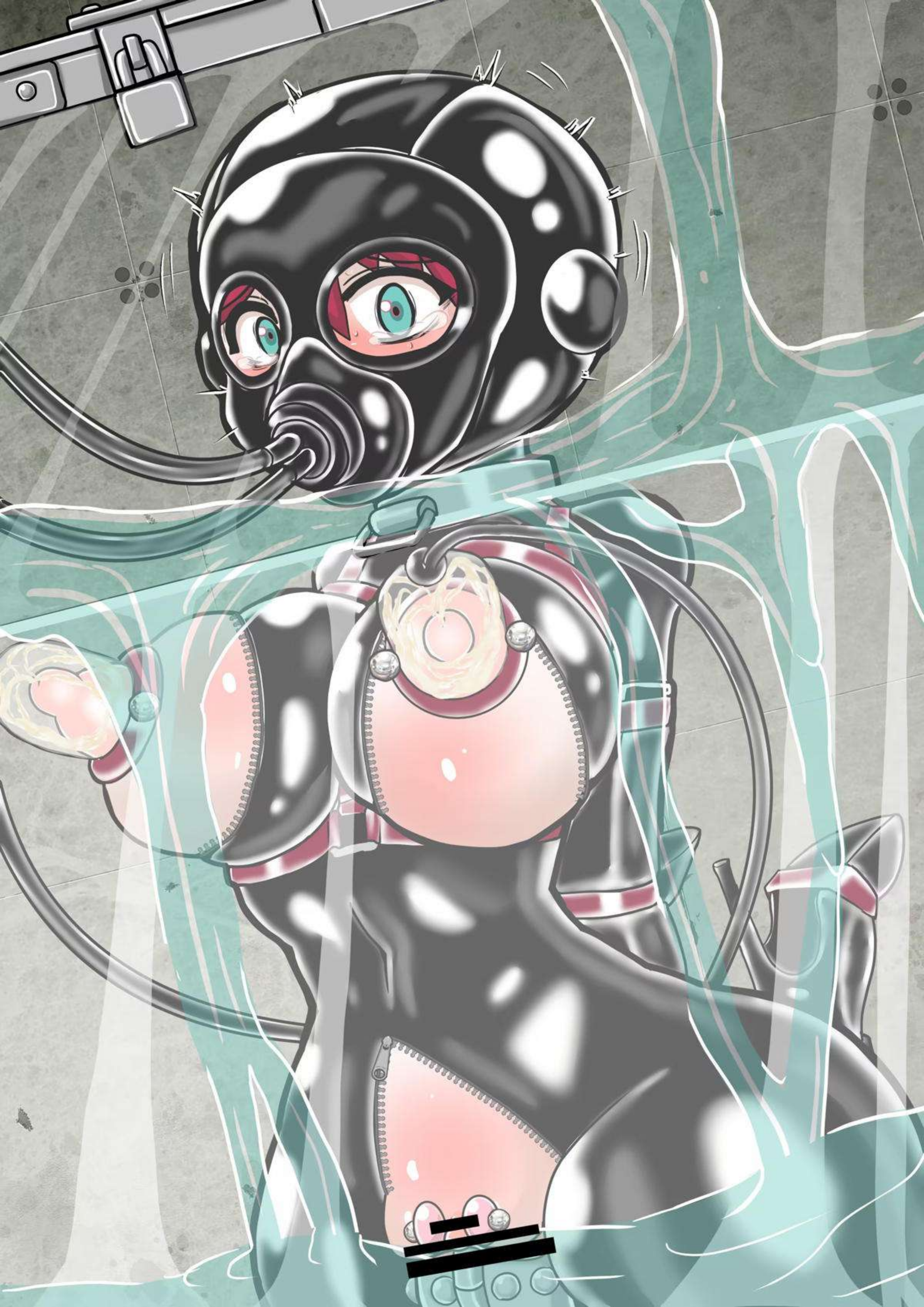


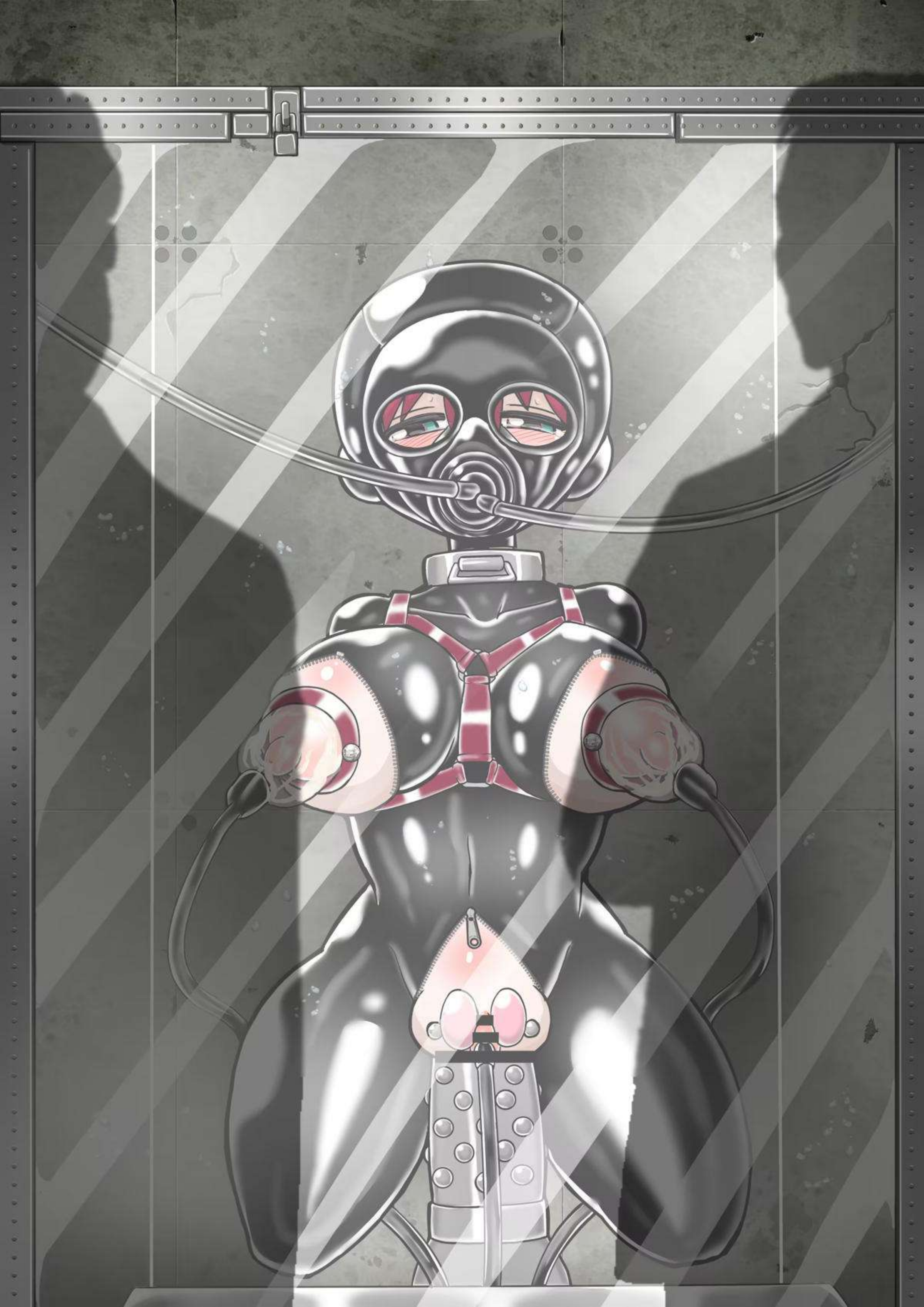


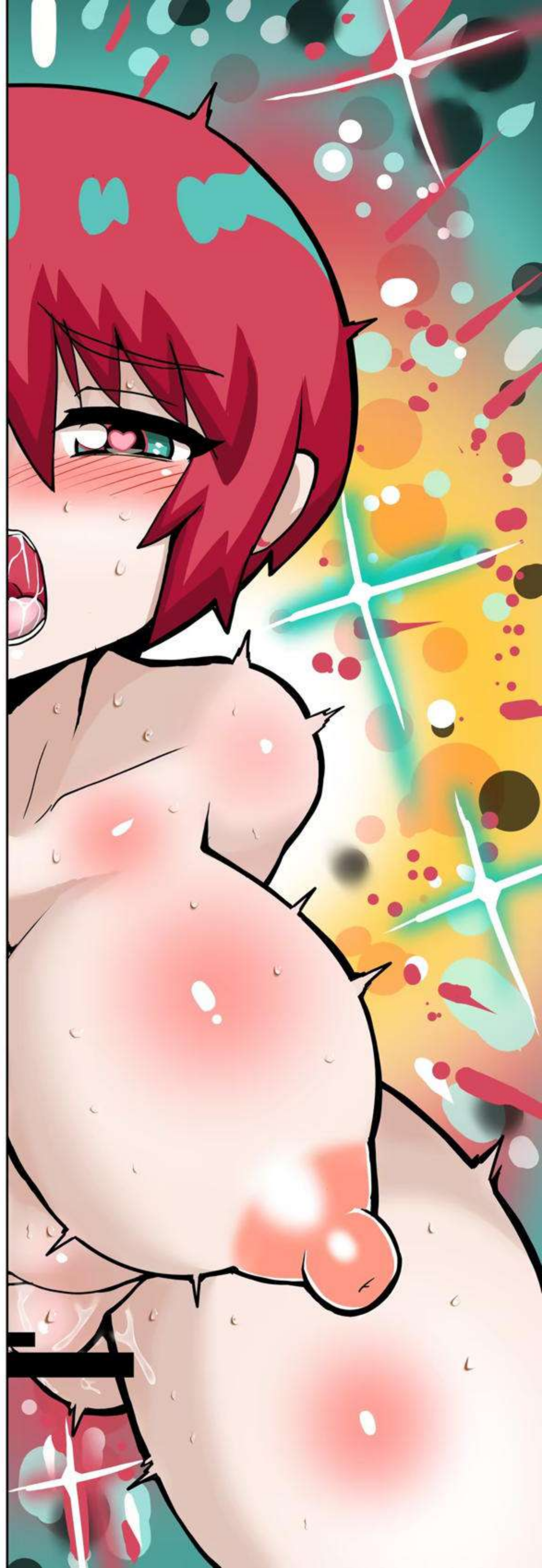










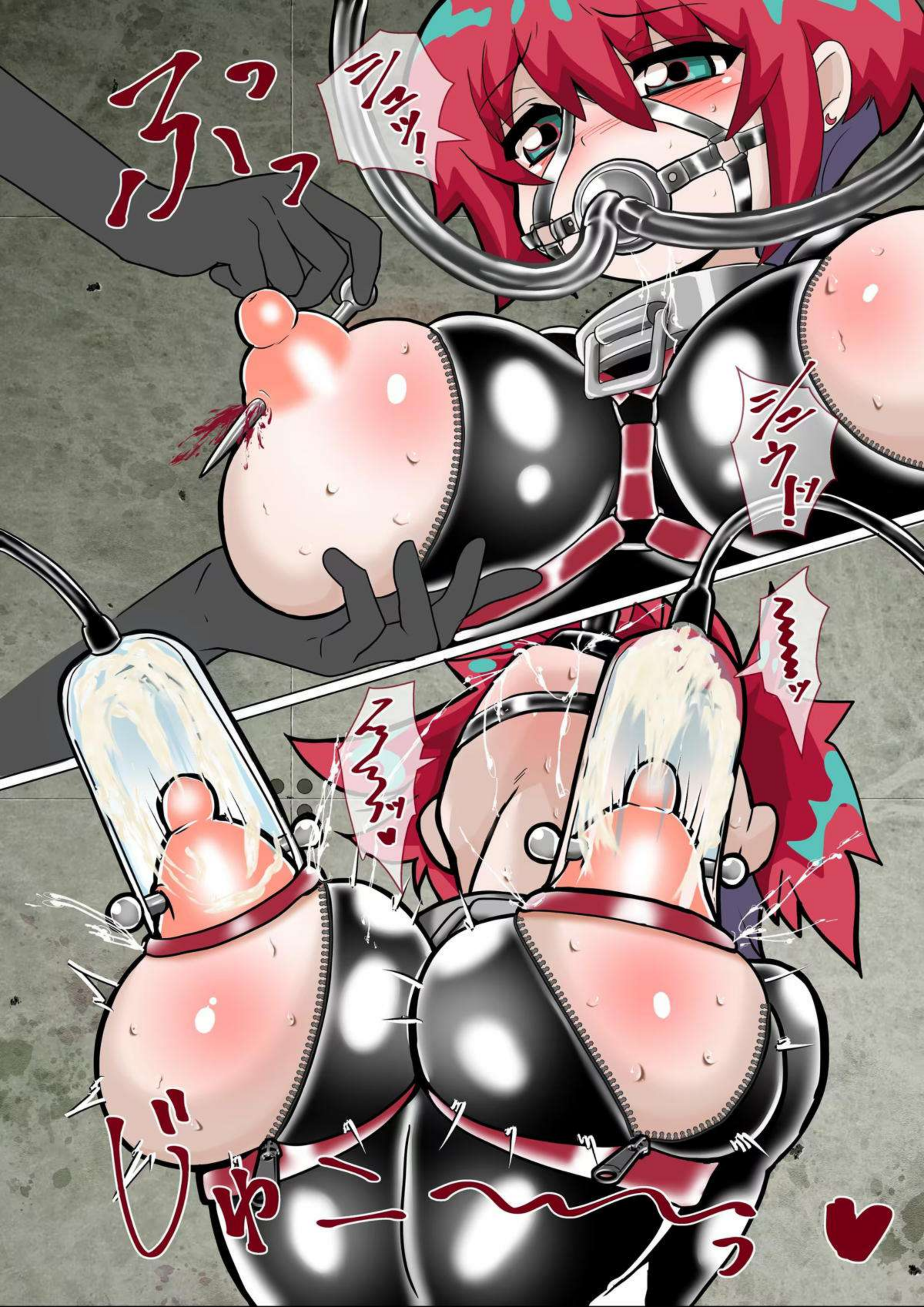










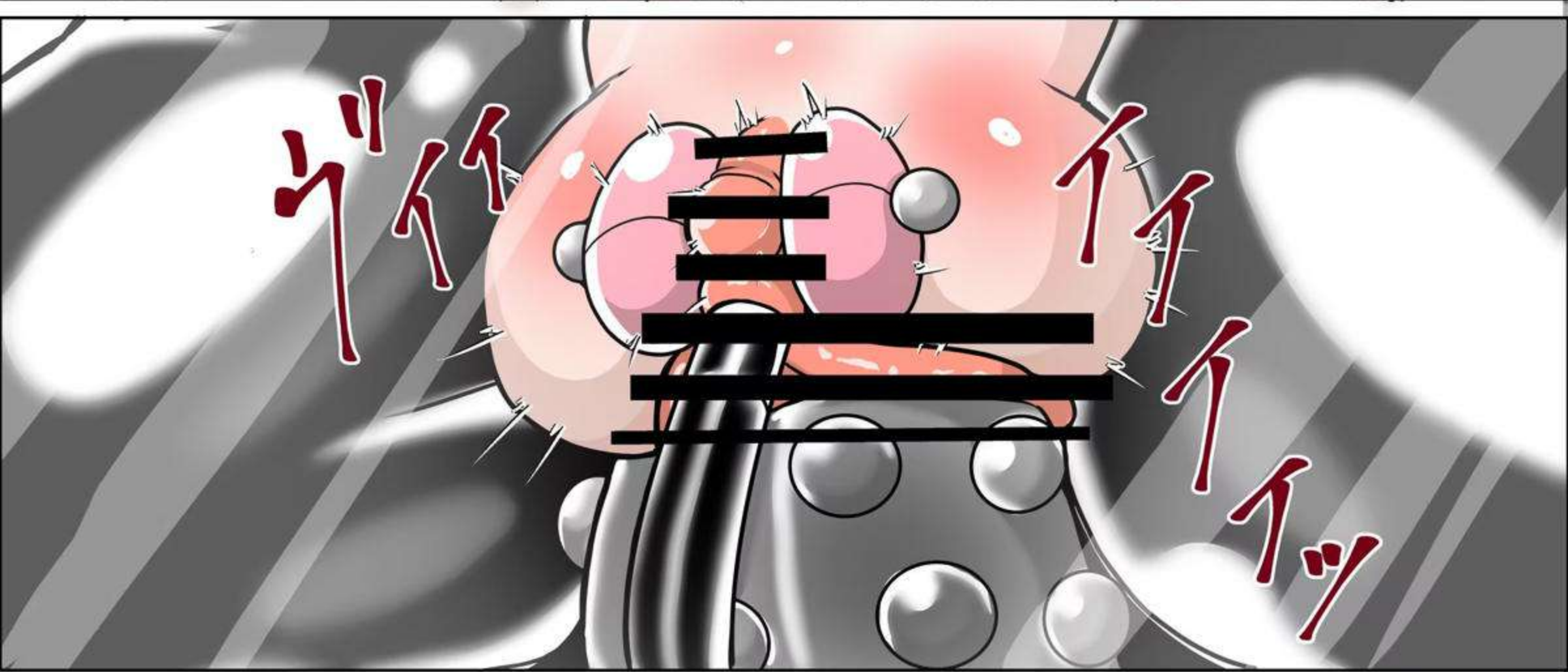
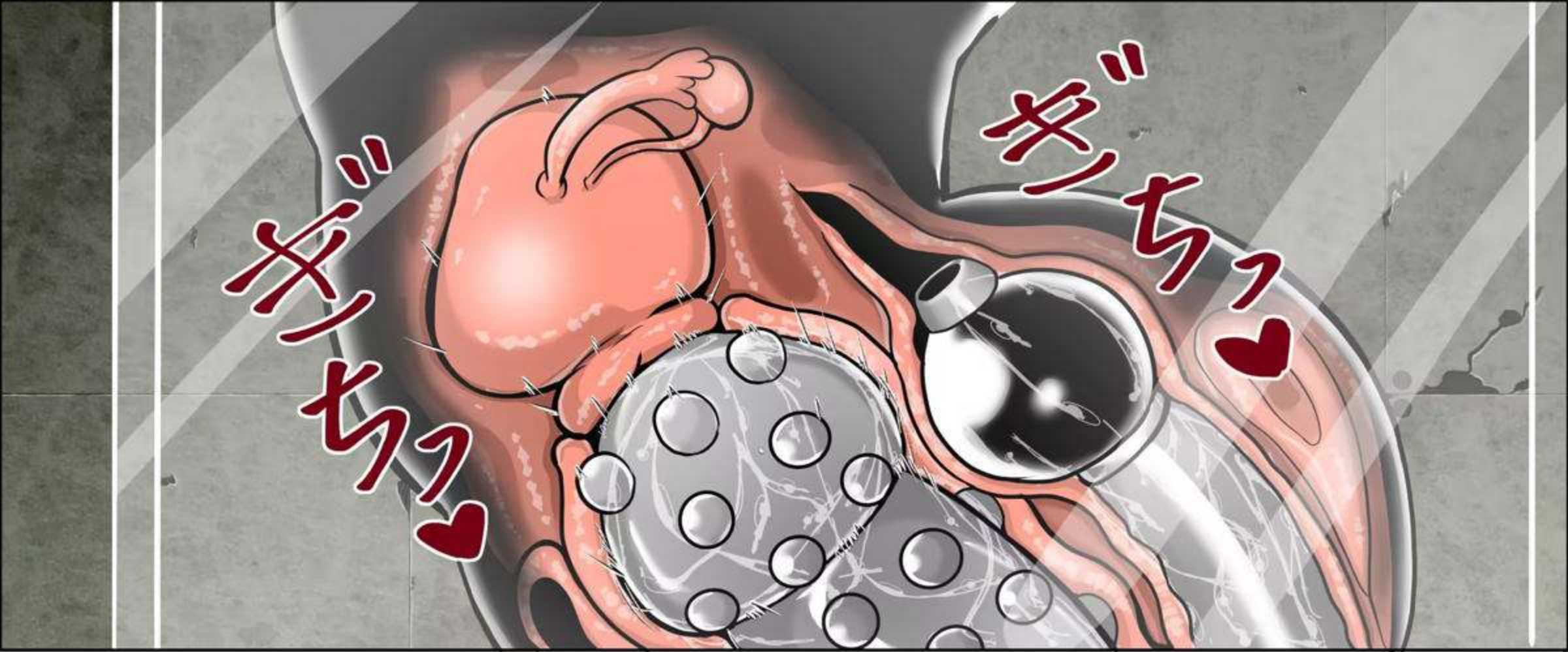














コロカ

ニム

ニム



ト
ハ
ト



ロ

オ
ツ
♡





アッ
アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ

コトコト
コトコト
コトコト

[Redacted]

